

令和 6 年度 学校教育目標		思いやりの心をもち すすんで学び たくましく生きる子どもの育成			
本年度の重点		7月末 中間評価①	12月末 中間評価②	年度末評価	
子どもの学びに関する事	重点目標 及び 指標	重点的取組	取組状況(○成果 ◆課題と改善点)	取組状況(○成果 ◆課題と改善点)	評価
	重点目標	重点的取組	取組状況(○成果 ◆課題と改善点)	取組状況(○成果 ◆課題と改善点)	評価
子どもの心	重点目標 考えを表現できる子どもの育成	○「自分の考えを表現する5つのポイント」を全教職員で共有し、授業を互いに参観する環境づくりをする。 ○自分の考えを表現する時間を確保する。(ノートに書く、タブレットに記入する等。) ○児童が互いの考えを共有するためのツールとしてICTを活用できるよう、職員研修を設定する。	○児童アンケートの数値は89%と目標にわずかに届かなかったが、前年度の数値からは5%の向上が見られた。学力向上部で「考えをつくるためのポイント」を作成したり、各指導者が重点的取組を意識して指導にあたったりした成果だと考える。 ◆授業中に、効果的にICTを活用しているグッドプラクティスを動画撮影して、職員間で共有する。	○職員研修の実施により、児童がノートへ根拠を示しながら説明を書くことが定着してきた。また、タブレットの活用により、書いたり話したりが苦手な児童でも容易に考えを表現できた。 ◆アンケートに肯定的な回答をした児童は83%と目標に届かなかった。子ども達が考えをもつための動きかけの不足が原因と考える。よって、授業の始めに前時を振り返る時間を設定したり、解決方法を交流する時間を設定したりするなどの、見通しのたせ方に関する研修を行う。	○成果 ◆次年度に向けた方向性・改善点 ○児童アンケート「授業でタブレットを使うことができた」では92%が肯定的な回答をしており目標数値である90%を上回った。 ◆指標についての児童アンケート結果は84%と目標を下回った。職員アンケートでも、授業でタブレットを活用しているが、考えの共有や比較をさせるには至っていないことが分かった。松ヶ江中の取組を参考にICT活用委員会（ICTアドバイザーを中心に若手教員で構成）を立ち上げ、ミドルアップでICTを活用した楽しい授業づくりに向けた研修計画の立案、運営を行う。
子どもの心の育ちに関する事	重点目標 思いやりのある言動ができる子どもの育成	○挨拶のスローガン「こえだあつし」の定着を図る取組として、計画委員会を中心に放送等での呼びかけを行う。 ○月に2回、朝に計画委員会が門に立ち、挨拶をする挨拶運動を実施する。また、各クラスから代表を決めて、委員会児童と一緒に挨拶運動に参加する取組の回数を増やす。(昨年度は3学期に1回のみ実施)	○児童アンケートの数値は、93%と目標を上回ることができた。重点的取組に加え、あったか言葉の木や放送の取組で、児童の頑張りを称賛したことの成果だと考える。 ◆「友達同士では、あいさつができていない部分がある」「こえだあつし」が徹底できていないところがあるなどの課題が見られていた。	○児童アンケートの数値は、91%と目標を上回ることができた。児童会活動によるあいさつリーダーの取組も始まり、あいさつに対する児童の意識が高まった。 ◆全学級で取り組む「あったか言葉の木」を活用できていない学級があったため、活用の手順を再度確認した。手順に沿って実施できているか確かめながら、今後も取組を継続する。	○指標についての児童アンケート結果は、7月が93%、12月が91%、2月が89%となり、概ね目標を達成した。 ◆「あったか言葉の木」の取組がマンネリ化している部分がある。次年度は、7月までは今まで通りの取組、8月からはあったか言葉を仲間分けて（枝を生やす）、増やしたいあったか言葉の種類を決めるなど、バージョンアップを図りながら取り組む。
子どもの体力に関する事	重点目標 日常的に運動に親しむ子どもの育成	○上津役小学校の運動実践プログラムを全教職員で共有し、実践を行っていく。(ジャンプアップ運動、ボディアランス運動等を、毎時間の体育の準備運動後、3～5分まで実施する。) ○体力向上につなげるための職員研修の実施、体力向上期間の設定(前期:スポーツテスト前、後期:未定)	○児童アンケートの数値は90%と、目標を達成することができた。すべての指導者が、体育の時間にジャンプアップ運動やボディアランス運動を実施した成果だと考える。 ◆児童がいつでも握力を測定できるようにコーナーを設置し、現在と4月の握力を比べる場を設定することで、自身の体力の向上を実感できるようにする。	○体育の時間のジャンプアップ運動、ボディアランス運動を継続して行った。運動カードの作成やスモールステップでの指導など、どの子も意欲的に運動に取り組むための工夫を行った。 ◆児童アンケートは88%と、わずかに目標に届かなかった。1月からは体育委員会が主体となり、外遊びをするきっかけづくりとして縄跳びの取組を進める計画を立てた。	○体力向上週間の縄跳びは、普段外に出ない子も進んで外遊びをするなど効果が見られた。 ◆指標についての児童アンケート結果は84%と目標を下回った。体力向上期間の取組(縄跳び)自体はよかったが、時期と回数に課題があった。次年度は年間を通して季節に合った取組を計画し、実施する。体育の学習は体育館や運動場の使用割合を学年で固めることで、ベテランによる場の設定を若年も使えるようにする。準備と片付けの時間を減らし、運動量の確保につなげる。
小中一貫教育に関する事	重点目標 中学校生活に希望をもって過ごす子どもの育成	○【小中連携】中学校の行事を参観(6年:体育大会の予行練習、5年:文化発表会) ○【小中連携】中学校から小学校への出張授業(音楽:卒業式の歌の練習、家庭科:調理実習またはミシン) ○【小小連携】大原小学校児童との交流(6年:オンライン) お互いのことを紹介できるような取組を実施予定 ○【3校合同】合同地域清掃(中1と小6)	○今年度は、小学生が中学校の行事を参観する取組を新たに追加した。 ◆7月までに話合いの場がもてなかったため、8月下旬の中学校区の3校合同研修会で、実施計画についての話し合いを行う。	○6年生の体育祭見学は天候の関係で中止となったが、キャリア教育(夢授業)では、将来への夢をもって働くことの意義に気付くことができた。5年生の文化発表会では、見学後のアンケートで91%の児童が肯定的な回答をするなど、交流の効果が表れた。 ◆中学校説明会や中学校職員による乗入れ授業の実施など連携を密にすることで、6年生が入学への希望をもてるようにする。	○1月に、中学校の音楽科の先生方に乗り入れ授業をして頂いた。 ◆指標についてのアンケート結果は81%と目標を下回った。5年・6年ともに連携が単発で終わってしまい、中学校生活への意識が継続できなかった。次年度に向けて小中の教務主任で話し合いを行い、ねらいを統一させてつながりをもった活動を行う。年3回程度の小中連携カリキュラムを作成する。(防災やキャリア教育など)
業務改善に関する事	重点目標 働きやすい職場づくり	○授業時数の見直し及び削減(2～6年生の週あたりの授業時数を1減らす。) ◆放課後は、月に終礼、火に学年研修、水に毎月月末金曜日を職員研修日に設定(全校児童を給食後の下校にすることで、職員がゆとりをもって業務を行えるようにする。)	○学年便りの廃止、Tetoruを活用した、保護者連絡の簡略化。 ◆放課後は、月に終礼、火に学年研修、水に毎月月末金曜日を職員研修日に設定(全校児童を給食後の下校にすることで、職員がゆとりをもって業務を行えるようにする。) ◆終礼は10～15分程度、運営委員会は20分程度で終えるようにする。そのために事前に資料を配布し、内容の確認を行っておく。 ◆後期からの校時の見直し	○一か月の時間外勤務を45時間以内にできている職員の割合が85%から93%に上昇した。7月末の反省会を受け、放課後の会議の持ち方等を見直したことや、業務改善に関する職員研修の成果と考える。 ◆児童の下校後に対外的な仕事をしなくてもよいように、仕組みを整える。(朝に連絡帳に目を通す、必要な生徒指導は昼休みまでに済ませる)	○会の議題の明確化、周知の工夫によって、昨年度より運動時間が早くなった職員が多かった。(特に若年教員) ◆提案時期が遅れ、職員の負担につながったことがあった。ICTやホワイトボード、ペーパーなどから適切な方法で、迅速かつ正確に伝達する。そのために、事前に方向性を固め順次職員に伝達する。

○ フォントサイズ等に変更しないこと。枠内に収まるよう、長文を避け、端的に記載すること。

○ 1・2・3・4段目の「子どもの学びに関する事」「子どもの心の育ちに関する事」「子どもの体力に関する事」「小中一貫教育に関する事」については、重点目標と重点的取組、指標を設定する(必須)。

○ 5段目については、「特別支援教育」「生徒指導」「長欠・不登校対策」「業務改善」等、学校独自の取組の重点目標と重点的取組、指標を設定することができる(任意)。

○ 重点的取組の成果等を適宜検証し、必要に応じて改善するなどPDCAサイクルの推進を図る。その際、各校で独自に実施するアンケート等を活用し、取組の成果を客観的に把握する。

○ 中間評価①は7月末、中間評価②は12月末、年度末評価は3月24日までを目安に行う。

○ 年度末評価は、A(目標を十分に達成)B(概ね達成)C(やや不十分)D(不十分)の4段階評価で行う。